

Illustrator® Quick Master CC

ver1

CC2019 補足版

2018年10月リリース～2019年2月リリース

- ・当補足版は、CC2019(2018年10月～2019年2月リリース)ユーザーがテキスト「Illustrator® クイックマスター CC」を使用した場合の操作内容及び操作説明を補足するものです。
- ・テキスト「Illustrator® クイックマスター CC」は、Adobe® Illustrator® CC(2015)及びCC(2017) 2015年6月～2017年4月リリースとWindows、Macintoshの両プラットフォームに対応しています。

	バージョン	リリース	対応テキスト
Illustrator CC	19.0 (CC2015)	2015年6月	Illustrator クイックマスター CC + CC2015/2017 補足版
	19.0.1 (CC2015)	2015年7月	
	19.2 (CC2015)	2015年11月	
	20.0 (CC2015.3)	2016年6月	
	21.0 (CC2017)	2016年11月	
	21.1 (CC2017)	2017年4月	
	22.0 (CC2018)	2017年10月	Illustrator クイックマスター CC + CC2018補足版
	22.0.1 (CC2018)	2017年10月	
	22.1 (CC2018)	2018年3月	
	23.0 (CC2019)	2018年10月	Illustrator クイックマスター CC + CC2019補足版
	23.0.1 (CC2019)	2018年11月	
	23.0.2 (CC2019)	2019年2月	

※Illustrator CC 2019年2月リリース(バージョン23.0.2)を元に製作しております。

■ P.4 (5 CCの新機能Typekitと本書で使用するフォントについて)

2018年10月から、TypekitはAdobe Fontsに変わりました。従来通り、CreativeCloud管理ツールからフォントの追加・削除ができる他、Illustratorの[文字]パネルから使いたいフォントをアクティベーションできるようになりました。

[文字]パネルからフォントをアクティベーションするには、「フォントファミリーを設定」をクリックし、[さらに検索]をクリックします。表示されたフォントの一覧の中から使いたいフォントの右側の「アクティベートする」アイコンをクリックします。



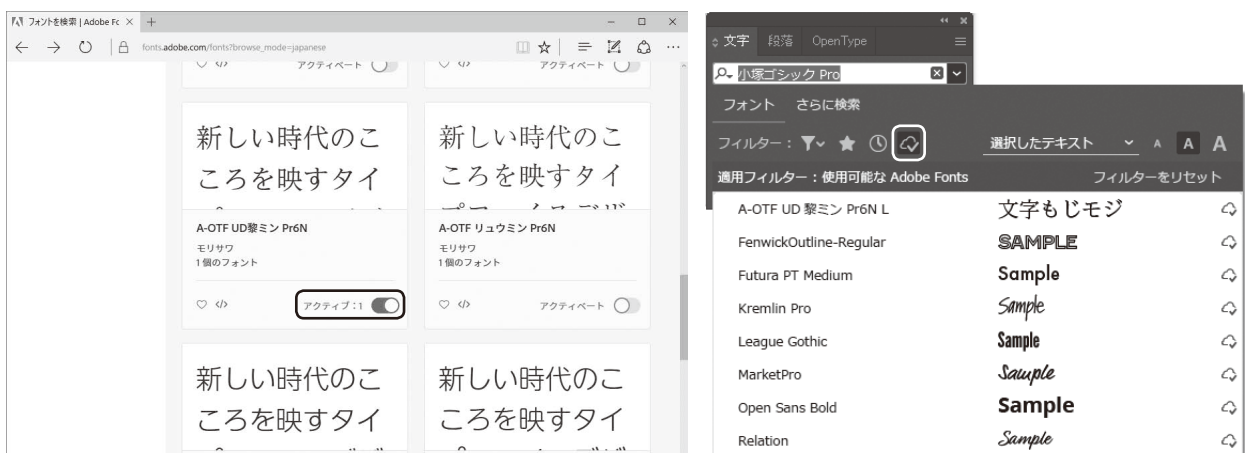
[文字]パネル

Adobe Fontsの使い方

CreativeCloud管理ツールから、[フォント] - [フォントを管理]を選択します。ブラウザが起動し、[Adobe Fonts]が開きます。Webページ左上の[フォント一覧]を選んでから[日本語モード]を選ぶと、日本語フォントのみが表示されます。



使いたいフォントの[アクティベート]をONにすると、フォントがアクティベートされます。Illustratorを起動し、[文字]パネルの「アクティベートしたフォントを表示」アイコンをクリックすると、アクティベートしたフォントのみが表示されます。



アクティベートしたフォントを表示

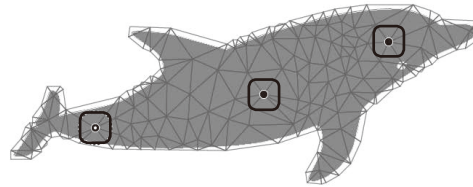
■ P.5 (ツール一覧) 変更・追加のあったツール

16 パペットワープツール (新機能)

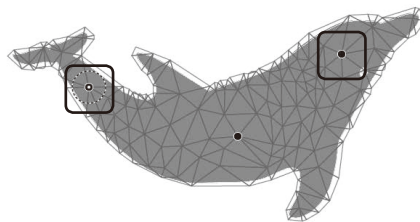
CC2018 より [パペットワープツール] が追加されました。
[自由変形ツール] は、[パペットワープツール] のアイコンを長押しして切り替えることができます。

アートワークを選択した状態で、パペットワープツールを選び、変形する領域と固定する領域を3箇所以上クリックしてピンを追加します。

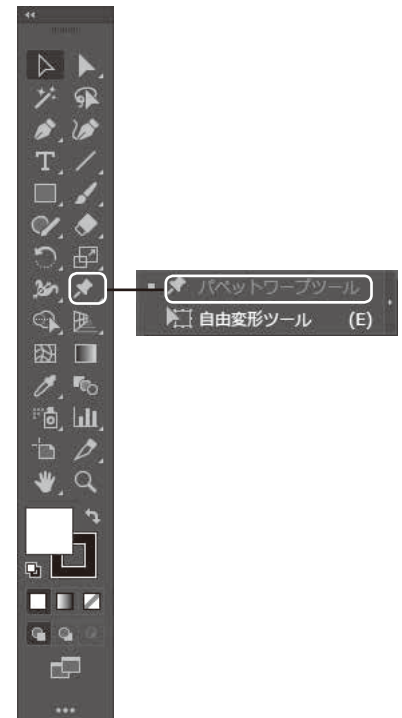
追加したピンをドラッグすると、アートワーク全体のイメージを保ったまま変形をすることができます。



クリックしてピンを追加



ピンをドラッグして変形



ツールバー

ツールバーを編集

ツールバーのアイコンを自由にカスタマイズできるようになりました。
ツールバーの下部にある「ツールバーを編集」ボタンをクリックすると、すべてのツールが格納されているツールドロワーが表示されます。

- ツールバー上のアイコンをドラッグして、位置を変更することができます。
- ツールバー上のアイコンをツールドロワーにドラッグすると、ツールバーからアイコンを削除することができます。
- ツールをツールバーに追加するには、ツールドロワーからツールをドラッグして、ツールバーにドロップします。
- 元の設定に戻すには、ツールドロワーのフライアウトメニューにある「リセット」をクリックします。



ツールバーをリセット

ツールバー ツールドロワー



ツールバーを編集

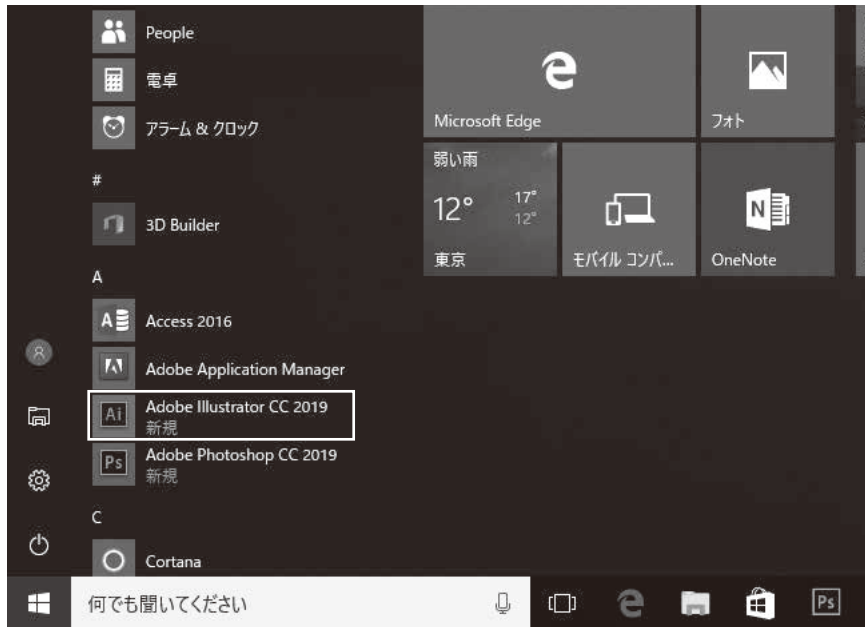
■ P.8 (1 Illustratorの起動 (Windows))

手順
番号

(CC2017)

(CC2019)

- 1 [スタートメニュー] から **[Adobe Illustrator CC 2017]** を選び、Illustrator を起動します。 → [スタートメニュー] から **[Adobe Illustrator CC 2019]** を選び、Illustrator を起動します。



■ P.9 (2 Illustratorの起動 (Mac))

[アプリケーション] ウィンドウの表示は、以下の通りになります。



[アプリケーション] ウィンドウ

手順
番号

(CC2017)

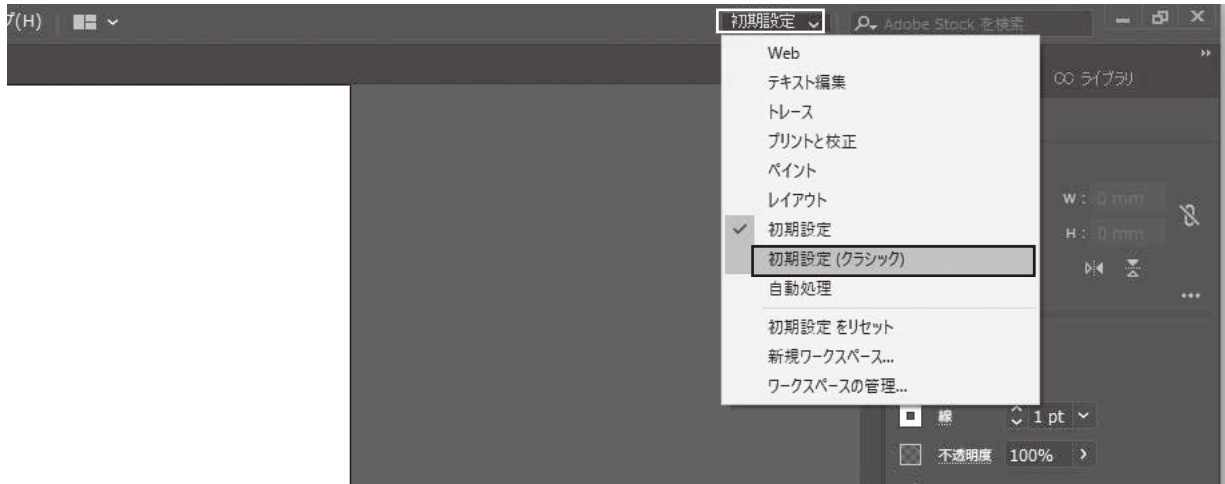
(CC2019)

- 2 「**Adobe Illustrator CC 2017**」フォルダー内の「**Adobe Illustrator CC 2017**」をダブルクリックし、Illustrator を起動します。 → 「**Adobe Illustrator CC 2019**」フォルダー内の「**Adobe Illustrator CC 2019**」をダブルクリックし、Illustrator を起動します。

■ P.10 (3 インターフェース)

パネル、バー、ウィンドウなどの様々な要素の構成をワークスペースと呼び、[ワークスペース切り替えコントロール]で切り替えることができます。CC2019では、**【初期設定】のワークスペースが変更されました。**

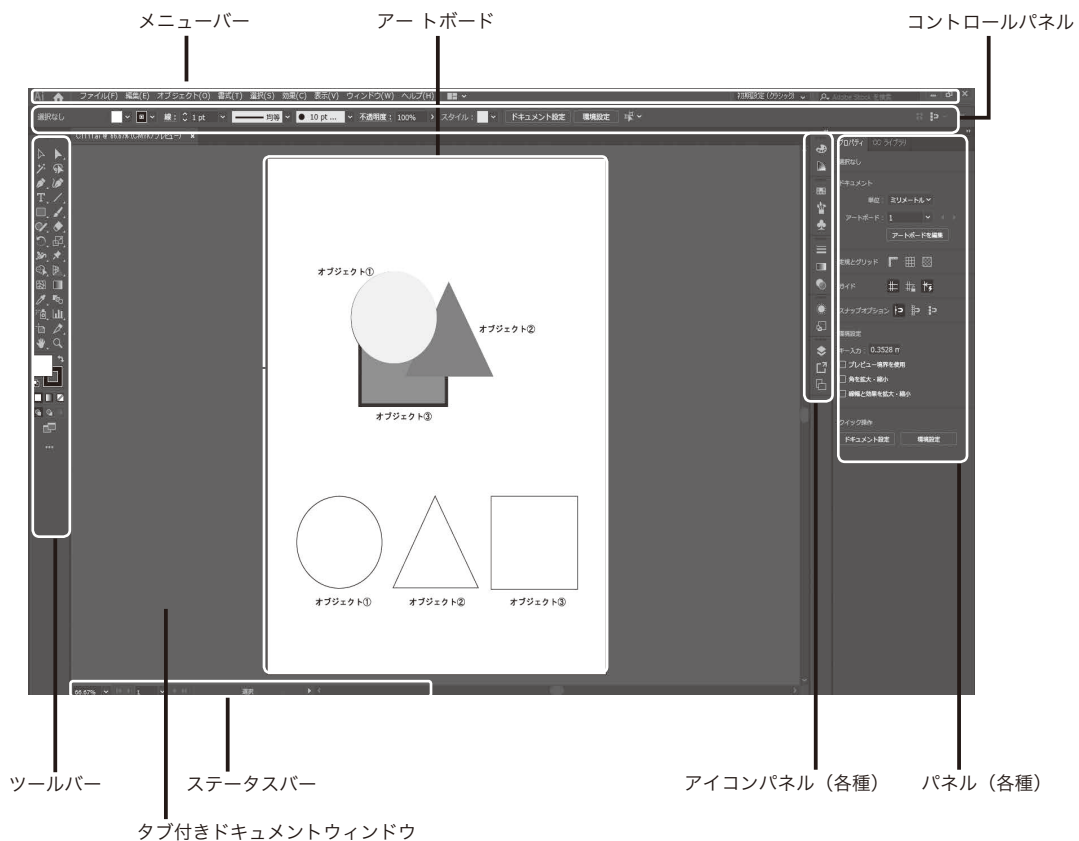
【ワークスペース切り替えコントロール】 - 【初期設定 (クラシック)】 を選ぶと、従来のワークスペースを使用することができます。



ワークスペース切り替えコントロール

インターフェース (ワークスペース 【初期設定 (クラシック)】)

「ツールパネル」の名称が「ツールバー」に変更されました。

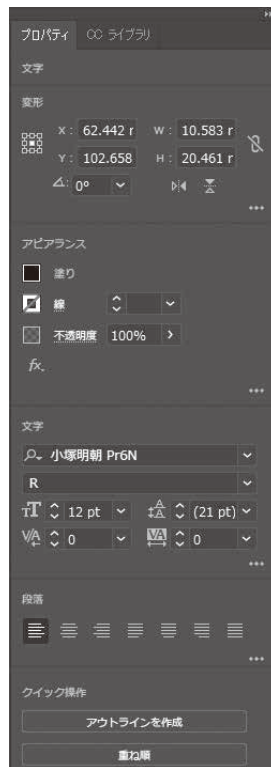


プロパティパネル

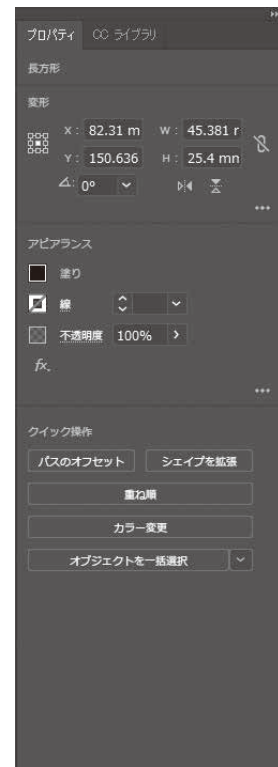
プロパティパネルは、現在選択している項目によって内容が切り替わり、目的の操作を素早く実行することができます。



【選択ツール】で、オブジェクトを選択していない状態



テキストを選択した状態



長方形を選択した状態

■ P.12 (6 パネルの操作)

手順番号 2

【グラデーション】パネルの表示が変更されました。

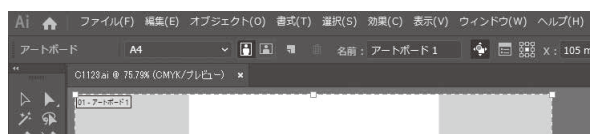


【グラデーション】パネルのタブをクリック

■ P.24 (8 アートボードの設定と用紙設定)

[アートボードツール] を選択した時のコントロールパネルの表示が変更されました。

- コントロールパネル上の「プリセット：」の文字列が非表示になりました。
 - センターマーク、十字線、ビデオセーフエリアの表示ボタンがなくなりました。センターマーク、十字線、ビデオセーフエリアの表示/非表示の切り替えは、[アートボードオプション]で行います。
 - 複数のアートボードを作成したときに、アートボードを整列できるようになりました。アートボードを整列するには、[アートボードツール] で「Shift (shift)」キーを押しながら整列させるアートボードをクリックして選択し、コントロールパネルの [整列] または [整列] パネルから目的の整列または分布のボタンをクリックします。
- ※アートボードは、1つのドキュメントに最大 1000 個作成することができるようになりました。



コントロールパネル

手順
番号

(CC2017)

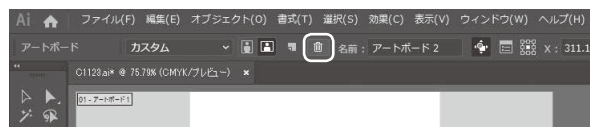
(CC2019)

5

作成したアートボードを削除してみましょう。
アートボードの右上の削除アイコンをクリック
します。
アートボードが削除されました。



作成したアートボードを削除してみましょう。
コントロールパネルの [アートボードを削除] ボタン
をクリックします。
アートボードが削除されました。



[アートボードを削除] ボタン

■ P.26 (2 GPU パフォーマンスの設定)

手順
番号

(CC2017)

(CC2019)

1

GPU パフォーマンス機能の設定は、画面表示を
より高速にするための設定です。
メニューから [GPU パフォーマンス] を表示し
ましょう。



GPU パフォーマンス機能の設定は、画面表示を
より高速にするための設定です。
メニューから [パフォーマンス] を表示しまし
ょう。

■ P.27 (Point 環境設定を残して、初期設定に戻したい場合)

「Adobe Illustrator 21 Settings」フォルダーは、CC2019 では「Adobe Illustrator 23 Settings」フォルダーになりました。

■ P.43 (7 ライブシェイプ機能によるシェイプの変形)

CC2017 から、[変形] パネルの [円グラフを反転] ボタンの名称が [扇形を反転] ボタンに変更されました。

■ P.55 (5 新規ドキュメントのカラーモード)

[新規ドキュメント] ダイアログのインターフェースが若干変更されました。

- カラーモードを変更するには、[詳細オプション]をクリックします。
- [詳細オプション]を表示すると、カラーモードの他、ラスタライズ効果、プレビューモードも設定することができます。

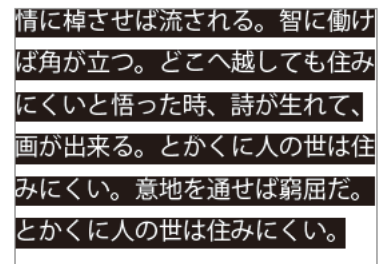
※ [新規ドキュメント] ダイアログのテンプレートの内容は図と異なる場合があります。



CC2019 [新規ドキュメント] ダイアログ

■ P.67 (1 文字ツールと文字エリアの作成)

[文字ツール] でテキストエリアを作成した際に流し込まれるサンプルテキスト (テキストカレット) の文字列が変更されました。

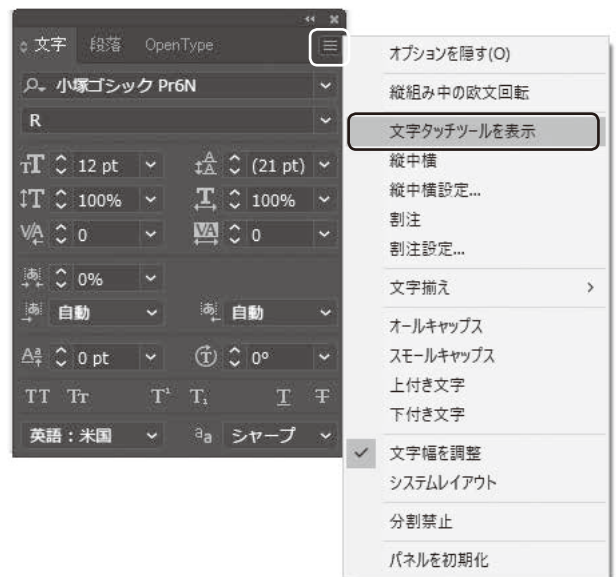


テキストエリアを作成

■ P.69 (1 文字パネル)

[文字] パネルの [文字タッチツール] ボタンが初期設定で非表示になりました。

[文字タッチツール] ボタンを表示するには、[文字] パネルのパネルメニューから [文字タッチツールを表示] を選びます。



[文字] パネルに [文字タッチツール] を表示

■ P.110 (2 グローバルプロセスカラー)

新規スウォッチを作成する際、初期設定でグローバルプロセスカラーが適用されるようになりました。

■ P.115 (1 グラデーションの適用)

手順
番号

(CC2017)

(CC2019)

4 グラデーションには【線形】と【円形】の2種類があり、切り換えることができます。



グラデーションには「線形グラデーション」、「円形グラデーション」、「フリーグラデーション」の3種類があり、切り換えることができます。



「円形グラデーション」に変更

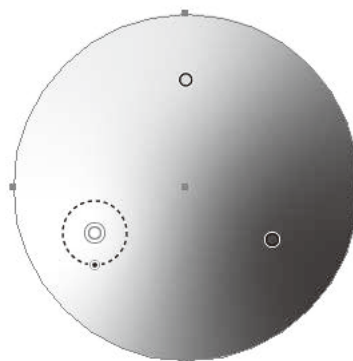
フリーグラデーション

オブジェクト内にカラー分岐点を自由に作成し、カラー分岐点のカラーを追加、移動、変更することで、複雑なグラデーションを適用できます。

[グラデーション] パネルで、「フリーグラデーション」をクリックします。

オブジェクトの任意の場所をクリックして、カラー分岐点を追加します。

カラー分岐点はドラッグして移動することができます。



フリーグラデーション

カラー分岐点をダブルクリックすると、カラーパネルが表示され、適用する色を変更できます。




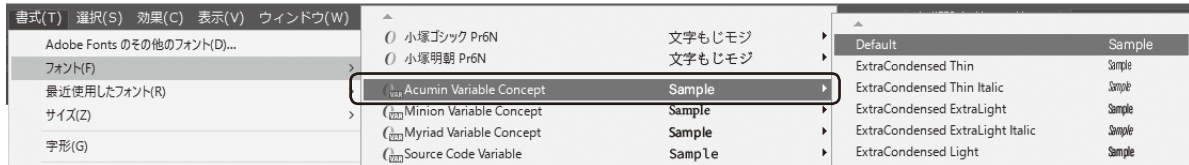
カラー分岐点の色の変更

■ P.130 (3 OpenType フォントと字形パネル)

バリエブルフォント

フォントの太さや字幅、傾斜角などを自在に変更し、1つのフォントで様々な表現を可能にするバリエブルフォントに対応しました。

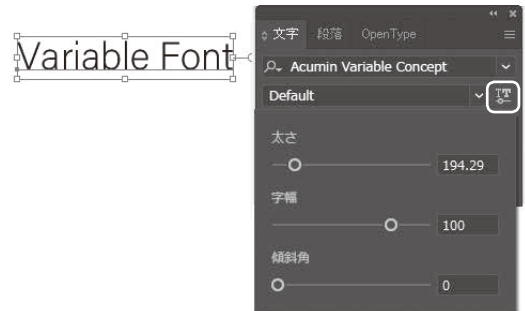
メニューバーから [書式] - [フォント] を選んだときに表示されるフォントのうち、バリエブルフォントはフォント名の前に「」のアイコンが表示されます。



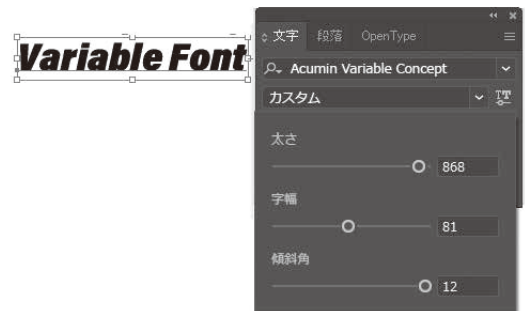
バリエブルフォントを選択すると、[文字] パネルに [バリエブルフォント] ボタンが表示されます。

[バリエブルフォント] ボタンをクリックし、[太さ]、[字幅]、[傾斜角]のスライダーを動かしてフォントの線幅、幅、傾斜を調整します。

※フォントの種類によって、編集できる属性は異なります。




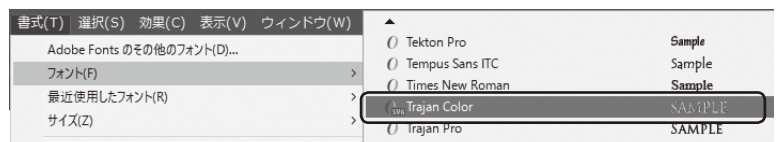
[バリエブルフォント] ボタン



OpenType SVG フォント

フォントに SVG のアートワークを埋め込むことによって、カラーや図形を表現できる OpenType SVG フォントに対応しました。

メニューバーから [書式] - [フォント] を選んだときに表示されるフォントのうち、OpenType SVG フォントはフォント名の前に「」のアイコンが表示されます。



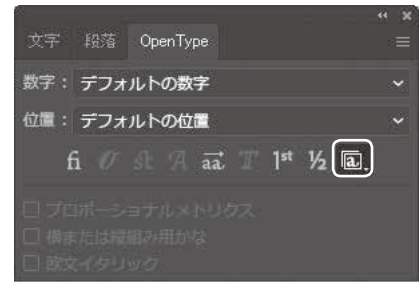
OpenType SVG フォントを使用した文字を選択するとコンテキストメニューが表示され、文字のカラーを変更することができます。



文字のカラーを変更

■ P.131 (4 OpenType パネル)

[OpenType] パネルに、[スタイルセット] ボタンが追加されました。選択したテキストに、デザインのセットで定義された字形を適用することができます。



[OpenType] パネル

■ P.145 (6 自由変形ツール)

手順
番号

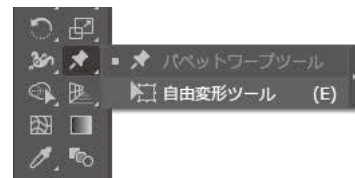
(CC2017)

(CC2019)

2 [自由変形ツール] を選択します。



ツールパネルの [パペットワークツール] を長押しし、[自由変形ツール] を選びます。

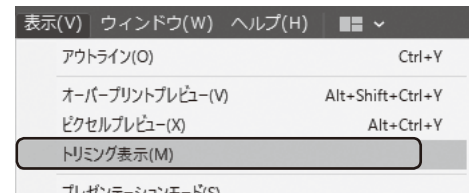


■ P.172 (Step6 写真を画像トレースでパスに変換)

トリミング表示

手順 4 の通りの操作でもアートボードからはみ出している部分を非表示にできますが、CC2019 では「トリミング表示」という新しい表示モードで簡単に仕上がりの状態を確認することができます。

メニューバーから [表示] - [トリミング表示] を選びます。トリミング表示では、アートボードの外側にあるアートワークと、グリッドやガイドなどの印刷されないオブジェクトは表示されません。



■ P.217 (Step6 余分なポイントを削除)

手順
番号

(CC2017)

(CC2019)

3 すべてのオブジェクトの選択を解除後、メニューバーから [選択] - [オブジェクト] - 【余分なポイント】 を選びます。



すべてのオブジェクトの選択を解除後、メニューバーから [選択] - [オブジェクト] - 【孤立点】 を選びます。

■ P.232 (Step7 入稿データのパッケージ)

手順
番号

(CC2017)

(CC2019)

2 2 収集されないフォントがあります。**Typekit** フォントは収集されません。また、著作権で守られた商業用のフォントには、収集されないものもあります。



2 2 収集されないフォントがあります。**Adobe fonts** は収集されません。また、著作権で守られた商業用のフォントには、収集されないものもあります。